

# 県学習状況調査を活用した学力向上に係る取組

## 宮代町立百間中学校

### 〈取組〉

#### 1 漢字の読み書き、語彙を広げる活動例

##### (1) 読み聞かせボランティアとの連携を生かした読書活動の推進

朝読書の時間を利用して、全学年を対象に「読み聞かせ」と「ブックトーク」を実施した。読み聞かせは、絵本を中心に読書の楽しみ方を体験することがねらいである。ブックトークでは、生徒の読書の幅が広がるように、中学生に読んでほしい本について読み聞かせボランティアと相談しながら選書し実施している。

##### (2) 家庭学習の定着を図る漢字のドリル練習

学習の進度に合わせて、繰り返し練習できるドリルを工夫して手作りした。ポイントは、「読み」と「書き」を交互に練習し、常に小テストが実施できるようにしたところである。定期テスト前には授業時にその中から小テストを実施している。



【ボランティアによるブックトーク】

#### 2 「書くこと」の指導における活動例

##### (1) ねらいを明確にした表現活動

単元の学習内容の定着を図り、書くテーマを工夫して様々な題材に取り組みさせる。

(例1) 「モアイは語る」の学習を受けて、地球の未来に関わる最近のニュースを取り上げ、それをもとに意見文を書く。

(例2) 漢詩の学習後に「春暁」の詩に込められた作者の思いを想像して絵及び文章に表す。

##### (2) 交流を通しての学び合い

まとまった文章を書いた後に推敲して修正を行い、推敲の必要性を理解させる。その後交流の時間を設定し、友達の記事を読み合い、表現のうまさや改善点について根拠をもって指摘し合う活動を通して共に学び合うよさを実感させる。

#### 3 「読むこと」の指導における活動例

##### (1) 朗読劇を取り入れた登場人物の心情読解

登場人物になりきることで、心情のみならず置かれた状況や情景もイメージしながら朗読をする。読む速さや強弱、声の調子など様々な工夫をして読解を朗読に生かす。

##### (2) 暗唱を通して古典のリズムを身につける

各学年の教材に合わせて冒頭部分や本文の暗唱に取り組み、担当教師の前で暗唱して合格印を出す。徐々に難易度を上げていきながら、次の目標に向かわせる。

### 〈成果〉

○休み時間や給食の準備中など、進んで読書に親しむ生徒が多く見られる。「読むこと」を通して語句の意味を知り、要旨を捉え、自分の意見を「書くこと」に発展させてきた。その成果として「語句の意味を展開に即して理解する」設問や「登場人物の描写に注意して読み、物語の内容を理解する」設問の正答率のアップにつながったと考える。

○古典の「歴史的仮名遣い」の理解や「古典の文章の内容理解」の設問に関しても、暗唱による音読の成果が表れている。

